

旦ノ原の井戸と顕彰碑

古賀市指定文化財第16号(令和5年5月24日指定)



所在地：古賀市筵内^{むしろうち}2600-5

築造年

井戸：文久3(1863)年

顕彰碑：明治34(1902)年

内容

道路拡張によって二度移築
復元された井戸と、井戸開
削に尽力した伊東忠平の功
績を顕彰する石碑

旦ノ原の井戸（左）と伊東忠平顕彰碑（右）

江戸時代の唐津街道である現在の県道503号を、青柳方面から福津市上西郷の方へ進む途中、九州自動車道上り線古賀SA横の福津市との境界近くに、**旦ノ原の井戸**（復元）とその**顕彰碑**が立っています。

この井戸は、江戸時代の旧裏糟屋郡筵内村、薦野村、旧宗像郡内殿村、上西郷村の境界付近に

あり、「**二郡四か村井戸一つ**」と呼ばれた公衆井戸

です。旧唐津街道の青柳宿から5km、畦町宿から3kmの位置にあり、丘陵が続く場所であるため井戸がなく、住民や旅人が困っていたため、付近に住む伊東忠平が自宅内に井戸を掘削し、公共に開放したといわれます。

井戸の開削

ここに井戸が掘られるきっかけについて「井土開鑿紀年碑建設主意書」（織田文書）によると、生活に必要な水の確保にも困窮していた旦ノ原の人々や街道を通る人々のために井戸を掘りたいが、莫大な費用がかかるため、長い間できずにいました。宗像郡の徳重村（今の宗像市）の大庄屋石松林平は、藩の御用などで唐津街道を通過して福岡へ出向くとき、



井戸（復元）



顕彰碑

旦ノ原にある伊東忠平の家に立ち寄り、休息をとっていました。あるとき、忠平が林平に黒田の殿様に井戸を掘ってもらえるようお願いして欲しいと依頼し、林平がその願いを黒田の殿様（第11代黒田長^{ながひろ}薄）に伝えたところ、費用は藩で持つことになりました。文久^{ぶんきゅう}2（1862）年に工事が始まり、翌文久3年の秋に、忠平の屋敷内に、周りを石垣で囲んだ、りっぱな井戸が完成しました。井水までが80尺（約24m）、水深11尺（約3.3m）という大工事でした。



解体前の伊東忠平屋敷

左側に顕彰碑が立っています。屋敷は昭和53(1978)年の台風で大きな被害を受け、その後取り壊されました。
（「広報こが」昭和55年3月号より転載）

顕彰碑の建立

伊東忠平の威徳^{いとく}をたたえる「鑿井紀功碑^{さくせいきこう}」が、明治34(1902)年6月に子孫や住民の手で井戸の横に建立されました。方形3段の基壇上に立てられた碑は、高さ1.54mあり、石材は凝灰岩^{ぎょうかいがん}製と思われます。基壇も含めた高さは2.38mになります。

二度の移転・復元

井戸は県道503号の拡幅^{かくふく}に二度かかりましたが、貴重な文化財として、外観が復元されています。

- ① 昭和61(1986)年の第1回移転・外観復元
- ② 平成21(2009)年の第2回移転・外観復元



第1回移転工事前の旦ノ原井戸と顕彰碑



井戸・顕彰碑の原位置と移転場所

<参考文献>

『福岡町史 資料編2』『同 資料編4』『同 収集資料目録3 諸家文書』2000年
『古賀市郷土読本 わたしたちのこが』2021年 古賀市立歴史資料館